

## 後輩よ、東北へ、東北大へ来たれ!

### —宮城朝陽同窓会・概要報告—

- ・日 時：平成19年7月21日(土)15:00～
- ・場 所：ホテル法華クラブ仙台・葵の間
- ・参加者数：18名

当日は杜の都で15年振りにプロ野球オールスターゲームが開催されるとあって一層賑わう街の中を、今年も元気よく参集いたしました。

冒頭、当会の設立・運営に長年にわたり貢献下さり、「宮城朝陽同窓会の父」と慕われた本間正樹先輩(中13)・四位誠光先輩(4)が惜しまれながらご逝去されたことを事務局から報告。ご冥福を祈るとともにこれまでのご尽力に心から感謝し、一同黙祷を捧げ、偉大な先輩に続き本会を発展させていく誓いを新たにいたしました。

平川会長(6)のご挨拶、岩井副会長(4)の乾杯のご発声により、今回も賑やかにスタート。

今回は、東京の朝陽同窓会本部より吉村幹事長(7・軟式野球部OB)がご来仙。母校の進学事情や部活動等の最新情報をご披露下さいました。現在、当会の学生会員が「ゼロ」という状況下、会の行く末を憂う多数出席者より「新宿高校生に対し、東北大学受験を薦めるよう同窓会本部からもなにとぞお力添えを！」との悲痛なる(!?)訴えも飛び出す始末。それもそのはず、東北大学名誉教授、教授陣を会員メンバーに多数擁し、これまで母校出身の学生さんを仙台にお預かりし大切に育ててきた伝統と自

負を持つ本会にとり、「学生会員ゼロ」という今の状況は誠に悲しい限りなのです。今後、母校で「第一歩を踏み出す」勇気のある生徒諸君が現れることを切に祈ります。今なら、これまで以上に大切にされること請け合いデス!?

その後、会員一人ひとりから、母校での懐かしい思い出話や近況報告を披露。「大病を克服し元気に復活。3年振りに同窓会に復帰したが、まだまだこんなに美味しくお酒が飲める！」と怪気炎を上げる、ご存じ燃える男(?)佐藤敦久さん(中20)、いまだ「30歳の気持ちで何事にもチャレンジ！」という小野寺茂さん(2)などナド、元気に活躍のフィールドを広げている多数の先輩方より、メンバー一同元気をいただきました。

会員数が減少傾向にある当会ですが、一方で仙台を離れてもなお同窓会に参加下さる方々が多いというのが特色でもあります。今回も関東方面から、高橋一隆さん(36・前幹事)、齊藤毅人さん(42・元会計幹事)、山形県より、中桐俊さん(37)、武田憲夫さん(40)、福島県より、吉田元さん(39・元会計幹事)がお忙しいなかご参加下さいました。あつい友情に感謝します。

シメは、恒例の「六中健児の歌」を全員で大合唱。厳しい唱歌指導ご担当の(?)萩原大麓さん(中18)が、今回はご都合により欠席されたことから、母校の合唱コンクール優勝指揮者のウデ前をもつ吉田元さんが緊急登板!立派な指揮者を果たされました。

時間が経つのも忘れ、大いに歓談・放吟した後、「来年また元気な顔で会おう!」と今後の健闘を誓い合い、お互いの肩を叩き合いながら散会いたしました。

事務局 小田島 肇 (38)

連絡先 (自宅) 022-718-0448